

関西大学図書館ウェブサイト「電子展示室」

『古今和歌集』から『新古今和歌集』まで 王朝400年の間に成立した8つの勅撰和歌集の写本や断簡など

「八代集の世界」と「北山切新古今和歌集」を公開

～美しい料紙と文字で具現化された“みやびの世界”～

11月14日(月)～12月17日(土)：ウェブサイト未公開の断簡などを含めて図書館1階にて展示

11月29日(火)：記念講演会開催「本を写すことと切ること」

関西大学図書館では、図書館が所蔵している『古今和歌集』から『新古今和歌集』まで、王朝400年の間に成立した8つの勅撰和歌集の写本や断簡などの画像を掲載した「八代集の世界」と「北山切新古今和歌集」をこのほどウェブサイト上に公開しました。

八代集とは、古今和歌集、後撰和歌集、拾遺和歌集、後拾遺和歌集、金葉和歌集、詞花和歌集、千載和歌集、新古今和歌集の8つの勅撰和歌集のことです。今年は『古今和歌集』(905年)ができてから1100年、『新古今和歌集』(1205年)ができてから800年という節目の年にあたることから、図書館が所蔵する資料を公開したものです。

掲載した資料数は、「八代集の世界」が20点、そのうち「北山切新古今和歌集」は全ページ143点の画像を公開しています。

「八代集の世界」では、公卿日野家の伝来品で、江戸時代後期の松阪の豪商・小津桂窓が集めた西荘文庫の旧蔵品をはじめ、中山切といわれる断簡などを展示。書写年代も平安・鎌倉・南北朝・室町・江戸と、様々な時代のものを選び出しており、時代による書風の変遷も鑑賞することができます。

また「北山切新古今和歌集」では、1350年(南北朝時代)に書写された冊子本の全ページを公開しました。古筆愛好家の間では、新古今和歌集の北山切は足利尊氏の筆と伝えられており、足利尊氏(1305～1358)の生存中でもあることから、実際に尊氏が書いた可能性も少なくない注目すべきものです。

【八代集の世界】



【北山切新古今和歌集】



また、本ウェブサイトの公開にあわせて、11月14日(月)から12月17日(土)にかけて、図書館1階の展示室でウェブサイトでは公開していない断簡なども展示しています(入場無料)。

11月29日(火)には、平安時代の和歌と古筆を研究している田中登・文学部教授(図書館長)による記念講演会「本を写すことと切ること」を、学生、一般市民を対象に図書館ホールで開催します(聴講無料)。

田中登教授は、

「江戸時代以前は文学作品を手で書き写す写本が一般的でしたが、平安や鎌倉時代の人々は、ただ単に元の本を正確に写すというだけでは満足せず、1巻の書物、1冊の本の中に、王朝のみやびの世界を具現すべく、美しい料紙に美しい文字で書くことに大いに腐心しました。そのため、美術的にもたいてい価値の高い本が数多く作られています。また、室町の終わりごろから江戸にかけて、古人の筆跡を鑑賞する風が起きました。時代による書風の変遷といったものも鑑賞し、美学の原点を感じてもらえればと考えています。」

と今回の公開についての期待を語っています。

「八代集の世界」

URL : <http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/hachidaisyu/index.html>

展示 : 古今和歌集、後撰和歌集、拾遺和歌集、後拾遺和歌集、金葉和歌集、詞花和歌集、千載和歌集、新古今和歌集の写本や断簡など、全20点

「北山切新古今和歌集」

URL : <http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/hachidaisyu/kitayama/index.html>

展示 : 1350年(南北朝時代)に書写された冊子本の全ページ

#### <参考> 関西大学図書館 電子展示室(<http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/etenji-top.html>)

関西大学図書館では、所蔵する貴重資料を学内外に広く紹介することで、研究活動に役立ててもらうことを図書館の本来の役割と位置づけています。

インターネットで貴重資料を公開する電子展示室では、江戸時代から父子相伝で5代にわたり受け継がれている上方(大阪)の浮世絵師・長谷川貞信の作品を2004年3月から、「嵯峨本伊勢物語(覆刻版)」と「改正伊勢物語」を2005年1月から公開しています。

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 川瀬 北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6337-7078

<http://www.kansai-u.ac.jp>